



■ 三島中央病院

岩井 隆太 さん

看護師経験:11年
特定看護師経験年数:1年8ヵ月

11区分17行為取得

高尾 薫 さん

看護師経験:18年・主任
特定看護師経験年数:8ヵ月

13区分24行為取得

原 富美子 さん

看護師経験:26年・主任
特定看護師経験年数:1年3ヵ月

12区分23行為取得

三島中央病院における実施可能な特定行為(21区分38行為中)

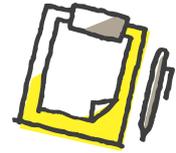
特定行為	A	岩井さん	原さん	D	高尾さん	F
	10区分 16行為	11区分 17行為	12区分 23行為	12区分 23行為	13区分 24行為	13区分 24行為
1 挿管チューブ位置調整	○	○	○	○	○	○
2 IPPV設定変更	○	○	○	○	○	○
3 NPPV設定変更	○	○	○	○	○	○
4 人工呼吸器装着中の鎮静薬の投与量調整	○	○	○	○	○	○
5 人工呼吸器からの離脱	○	○	○	○	○	○
6 気管カニューレ交換	○	○	○	○	○	○
7 胃瘻カテーテルもしくは腸ろうカテーテル又は胃瘻ボタンの交換	×	○	○	○	○	○
8 膀胱瘻カテーテルの交換	×	○	○	○	○	○
9 CV抜去	○	○	○	○	○	○
10 PICC挿入	○	○	○	○	○	○
11 血流のない壊死組織のデブリ	○	○	○	○	○	○
12 VAC	○	○	○	○	○	○
13 血ガス採血	○	○	○	○	○	○
14 Aライン確保	○	○	○	○	○	○
15 急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析ろ過器の操作及び管理	×	○	×	×	×	×
16 高カロリー輸液投与量調整	○	○	○	○	○	○
17 脱水症状に対する輸液補正	○	○	○	○	○	○
18 創傷ドレーン抜去	○	×	×	×	○	○
19 インスリン投与量の調整	○	×	○	○	○	○
20 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時投与	×	×	○	○	○	○
21 持続点滴中のカテコラミンの投与量調整	×	×	○	○	○	○
22 持続点滴中のナトリウム、カリウム、又はクロールの投与量調整	×	×	○	○	○	○
23 持続点滴中の降圧剤の投与量調整	×	×	○	○	○	○
24 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	×	×	○	○	○	○
25 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整	×	×	○	○	○	○



特定看護師の活動と役割

地域包括ケア病棟配属の特定看護師3名がチームを組み、院内横断的に活動しています。各々PHSを携帯し、2名が特定行為や病棟看護師からの相談等の依頼に対応します。他1名は配属病棟の業務を行います。特定看護師は急変予兆を把握し心停止を未然に防ぐRRS的役割も担っており、入院患者さんの高齢化によるリスクの回避にも貢献しています。研修で学んだ臨床推論の知識を活かした判断やアドバイスをすることで、スタッフの安心にもつながっています。

1日のスケジュールと勤務体制



Schedule



特定看護師2名

8:00 医師とのカンファレンス・病棟ラウンド・情報収集
 ↑
 特定行為の医師からの依頼や看護師からの相談対応
 ↓
 特定行為の準備
 12:00 休憩
 13:00 特定行為の実施
 ↓
 実施記録
 ↑
 看護師からの相談対応
 17:00 終業

特定看護師1名

8:30
 ↑
 ↓
 17:30
 配属病棟での業務

【勤務体制】

日勤帯は、日曜祝日以外は2名が出勤します。夜勤帯は特定看護師は不在です。勤務予定表は特定看護師(主任)が業務に合わせた原案を作成し、病棟師長に提出する形を取っています。

岩井 隆太さん

【受講きっかけは?】

10年目になり、看護師としてのステップアップを考えている時に看護部長に勧められました。

丁度良い時期だったと思います。

【受講中大変でしたか?・工夫したこと】

研修時間は勤務扱いだったため、学習に専念できました。受講区分が多く、学ぶことも多かったので大変でした。分からない事も多かったですが、実践をするためには必要な知識なので、e-ラーニングの研修動画を繰り返し視聴する等、実践を見据えて学習を進めていきました。

【やりがいは?】

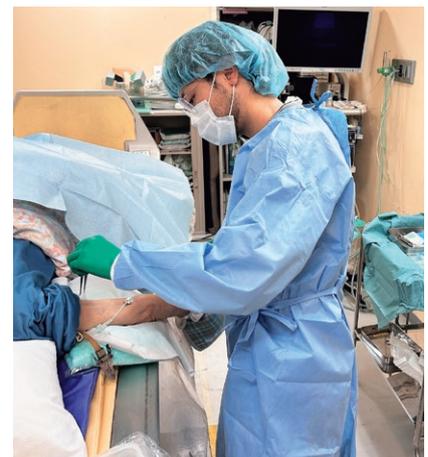
やりがいは凄くあります。毎日新しいことに取り組んだり、課題を解決するための努力をすることで、自身の成長を感じることが出来ます。指定研修機関での研修では、高画質のエコーを使って、モデルへのPICC挿入がスムーズにできたのですが、当院での実践の際に、エコーの画質の違いもあり、挿入できずに自信がなくなったこともありました。しかし、常に振り返りと改善を行い、経験を積むことで、今では90%程度の成功率となりました。技術力が向上しているのを感じ、やりがいにつながっています。

医師からのタスクシフトが進み「これでいいのか?」と悩んだこともありましたが、今は活動する中で、医師の目線と、看護師の目線で考えられようになってきました。実績を積むことで少し気持ちに余裕ができたのだと思います。依頼されたことをそのまま実施するのではなく、リスクもしっかりと考え、時には、行わないという選択もします。安全に実践するために、手順書や医療安全上の院内のルールを常に念頭に置くよう心がけています。

【趣味等】

バレーボール 休日の過ごし方/「のんびり」を心がける。子供と外で遊ぶ

座右の銘/「失敗は成功のもと」好きな食べ物/焼肉、鍋等みんなで楽しく食べられるもの



高尾 薫さん

【受講きっかけは?】

地域包括ケア病棟配属前は、急性期内科病棟で働いていました。1人目の特定看護師が病棟師長で多くの知識を持って実践し、スタッフ教育をしていました。患者のニーズにいち早く対応している師長の姿に憧れていました。そんな中で看護部長に受講を勧められました。

【やりがい?】

楽しいです。医療のチームの一員として学んだ知識を基に多職種と話す機会が増え、多職種とチームになって検討し、患者さんに良い治療を提供できるとすごく嬉しく感じます。それが患者さんの笑顔や退院につながったことがよりうれしいです。

医学的視点を得たことによってより広い視点で考えられ、全体像を捉えられるようになり、良い治療・看護に活かせていると思っています。

半面、自分の行動・言動に責任をとっても感じます。そんな中、特定看護師の先輩や仲間と相談し乗り切っています。特定行為研修指導者でもある院長の指導を受けることも多く、安全で確実に医療や看護を提供できるように日々頑張っています。地域包括ケア病棟スタッフからの相談が多いです。医師に報告するべきかを悩んでいるスタッフから相談を受け、一つひとつ丁寧に相談に乗り、解決することでスタッフの安心にも繋がっていると思います。自分で判断出来ないときには、調べたり、特定看護師チームに相談して答えを導き出し、答えるようにしています。

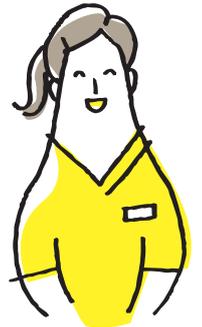
【これから特定看護師を目指す人へメッセージ】

特定看護師になりたいと思っても子育てとの両立に不安を感じて、その一歩を踏み出せない人も多いと思います。私は、看護師としても親としても中途半端で自信がなかったけど、夫が協力的で家事を手伝ってくれたので、頑張ることができました。

特定看護師となることで自分自身の自信につながりました。子育て中でもちゃんと特定看護師になれる。なので、子育て中のママへ頑張らしましょう!と伝えたいです。

【趣味等】

こどもとの時間、寝る前に子供にタクティールケアをします。その時間が私にとって癒しの時間であり、幸せの時間です。



原 富美子さん

【受講きっかけは?】

キャリアアップできるチャンスだと思ったのと、上司の勧めがあって決めました。受講前は、地域包括ケア病棟の主任として看護師業務と看護管理を行っていました。高齢者が多く、多くの疾患を持っている方が多いので、病態や治療についての知識をもつ必要性を感じていました。整形外科の手術後の患者さんも多いので、特定看護師として医師と看護師、多職種との連携強化に貢献できればと思っています。

【やりがい?】

できなかった行為ができるようになり、技術が上達すると嬉しいです。また、医師からの指示で動くのではなく、自分達でアセスメントして行動できる事をやりがいと感じます。アセスメントや行為の実践についても、3人のチームとして活動できることで心強く、よかったと思っています。

【趣味等】

ビールを飲むこと。料理をすること。休日はゆっくりと過ごしている。



三島中央病院の組織ビジョン

菊池看護部長さんからのメッセージ

修了者活用の看護部のビジョンは以下の7つです。

1. 看護実践能力の高い組織へ
2. 患者ニーズに迅速に対応できる組織へ
3. 看護職の負担を軽減し働きやすい組織へ
4. 急変予兆を早期に捉え、未然に防げる組織へ
5. 在宅医療に貢献できる組織へ
6. 褥瘡予防・管理の充実した組織へ
7. 医師の負担軽減に貢献できる組織へ



現在、6名の特定看護師が活躍しています。地域包括ケア病棟3名、急性期内科病棟1名（師長）、訪看ST1名、褥瘡専従1名。今後も、院内における特定看護師の役割は大きく拡大し、当院の大きな強みとなっていくものと期待しています。

《特定看護師の活用について》

1人目の受講者の修了後は、看護部内の教育は進みましたが、特定行為の十分な活用には至りませんでした。医師からも、初めは、看護師に任せて大丈夫かとの声もありましたが、特定看護師が安全に実施し、実績を積むことによって医師の理解が得られるようになりました。院長が特定看護師育成に積極的に取り組んだ事も大きかったと思います。現在は、特定看護師業務に専念できる時間を確保するため、地域包括ケア病棟に3名をチームとして配置しています。急性期病棟への配置は、OJTによる教育的成果がある反面、病棟業務の中で特定行為を実施できる時間の確保が難しかったり、多くの依頼がある際に対応できないこともあるため、現在はこの形を取っています。

《今後の特定行為看護師の活動について》

高齢化の伸展や医師不足によって、今後の特定看護師への医師・看護師のニーズは更に高まっていくものと考えます。今後の状況によっては、特定看護師チームの専従化も考えています。専従化に限らず、より依頼しやすく組織横断的なチームの活動が定着し、タイムリーで質の高い医療提供や、患者さんや職員の安心につながることを期待しています。今後は、ケアミックス病院としての医師の確保状況等によって、特定看護師の活用の形も変化していくものと思います。3年先、5年先の看護部のビジョンを見据え、部内・院内で共有しながら進めていきたいと思っています。



医師（診療部長）からのメッセージ

PICCの挿入や人工呼吸器の調整等特定行為を看護師が行うことにより、医師の業務改善のみならず、該当する行為まで医師を待つ必要がなくなるなど、患者さんやスタッフの負担軽減にもつながっております。また、専門的な知識を看護師が習得することにより、看護師と医師の間でのコミュニケーションが、より円滑になっており、病院の医療の質を高めることに寄与していると考えております。



「看護の日」キャラクター
(静岡県) かんごちゃん